


お花の栽培シリーズ「ツククサ」		
2010年9月	長月(ながつき)・菊月(きくづき)・寝覚月(ねざめつき)・晩秋(ばんしゅう)	●朝夕はめっきりと涼しくなり、秋が深まります。
<p>●植物も暑さがやわらぎ、ホッとひと息ついでいることでしょう。夏の鮮やかな花壇もそろそろ終わりに近づきます。</p> <p>●台風対策もしっかりと行いましょう。</p>		
庭木の作業	<ul style="list-style-type: none"> ・10月初めまでは、常緑樹の植え替え時期です。 ・台風のシーズンに入るので、倒れないように支柱を立ててしっかり結束しましょう。 ・下旬になると生長がとまってくるので、手入れの時期にはいります。 ・茂りすぎた大きな木では、台風前に枝を間引きして風あたりを少なくします。春に花の咲く花木類では、花芽のついた枝をあまり切らないようにしましょう。 	
草花の作業	<ul style="list-style-type: none"> ・秋まきの種の種まきをします。芽がでたところをコオロギに食べられないように注意しましょう。 ・夏の草花類の種子が実るので、来用に集めて乾燥させ、袋につめて空きカンに入れて貯えておきます。 	

今月の誕生花	キク、フヨウ、リンドウ	
今月の花	ツククサ 花言葉/なつかしい関係	
	<p>日本では古代、この花の汁で布を染めました。道端に咲く小さな花びらを軽く押しただけでも、青い色が指先に残ります。水に濡れるとすぐに消えてしまうはかない染料ではありますが、この性質を利用したのが、現在も友禅の下書きに使われている青色紙です。これはツククサの花の絞り汁を、和紙に何回も染み込ませたもので、随時水に浸して青い液を作り、その液で下書きを書いて、本染めが済んだら、水で洗って下絵を消すという技法のことです。</p> <p>滋賀県では、現在でも、花が大きいオオボウシバナ(ツククサの園芸品種のひとつ)を青色紙用に栽培しています。</p> <p>コップの水にツククサの花をつけ、何度も絞ると美しい青色の色水ができます。小さい頃はそんな色水遊びもやりました。</p> <p>『なつかしい関係』という花言葉も、この花が郷愁を誘うからかもしれません。別名の「ツククサ(月草)」は、「着き草」から転じた名前だといわれています。衣に色が着く草だという意味です。</p>	
	<p>原産地は日本、東アジア。ツククサ科ツククサ属の1年草。草丈は30cm～80cmくらい。開花時期は6～9月。最盛期は7月。葉の形状は、綿形。花色は、藍。英名デイフラワー(Day flower)。別名 蛍草(ほたるぐさ)月草(つきくさ)、鴨距草、露草(漢字表記)。花持ちは1日程度。</p>	
	<p>ツククサを書類や手紙の上などには置かないように。すぐに色が移ってしまいます。</p> <p>その性質を利用して、夏のラブレターにツククサの汁で署名をするのも、楽しいものです。</p>	

お花の栽培シリーズ

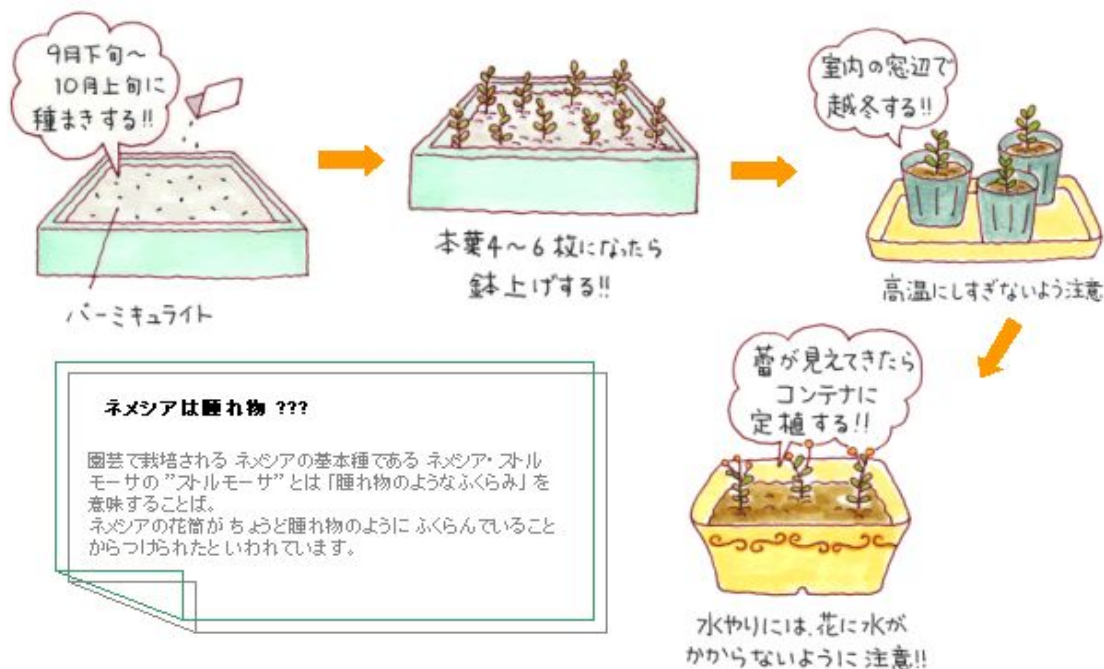
今月の花 ネメシア

日当たり  日なた	水やり  ふつう	気温  13~22℃	草丈  15~30cm	花色 
--	---	---	--	--








南アフリカのネメシア・ストルモーサが園芸用に品種改良されたものです。冷涼でやや乾燥気味な環境を好み、高温多湿は苦手としています。特に花は雨に弱いですから、花壇での栽培は避けます。コンテナや鉢植えにして、屋根のあるベランダやテラスで育てます。水やりのときに花に水がかからないよう注意しましょう。種から育てる場合、9月下旬~10月上旬にかけて種まきをします。種まきの用土は、バーミキュライトなど、清潔で無菌な用土を用います。本葉が5~6枚になったころ鉢上げして、フレームや室内の窓辺で冬越しさせます。窓辺に置くときには、高温にしすぎないように気をつけます。4月になったら、鉢などに植えつけます。花色がたいへん豊富ですから、コンテナなどに各色を寄せ植えにするときれいですよ。

●種まきからの育て方



●年間スケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
状況	花期 												
場所	屋内の日当たりがよい場所			屋外の日当たりがよい場所			※雨に弱いので、屋根のあるテラスやベランダに置く			屋外の日当たりがよい場所		屋内の日当たりがよい場所	
水やり	表土が乾いたら与える (3~4日1回)			表土が乾いたら与える (1~2日1回)						表土が乾いたら与える (1~2日1回)		表土が乾いたら与える (3~4日1回)	
肥料	元肥												
害虫・病													
作業	 冬越し			 植えつけ						 種まき		 冬越し	
							フレームや室内の窓辺などで冬越しさせる 高温になりすぎないように注意する						